

その日はな、昭和十三年九月一日の二百十日の出来事できごとだったそうなの。

村人は、新潟にいがた生まれの婆様ばあさまは、生まれ故郷に帰って行ったんだなあつとよと呟つぶやき合ったそうなの。

小柄で丸顔、当時六十歳位だったそうです。この時、下米塚しもよねづかの堤防決壊ていぼうけつかいのため、思い堀より東方地区は、胸むねまでつかる洪水こうずいに見舞みまわれたそうです。